

令和元年 6月 3日  
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標題

令和で最初の集落放牧シーズン！  
西いわみ地方に到来！！

(ダイジェスト)

5月20日、益田市の（農）横尾衛門と（農）城九郎の牧野で集落放牧が始まりました。横尾衛門では1頭、城九郎では2頭のレンタル牛が隣町から搬入され、各法人構成員と当普及部で入牧検査に立ち会いました。

益田市内で集落放牧を検討しているリーダーも見学に来られ、放牧設備の設置手順や牛の行動を熱心に観察されていました。

西いわみ地方では、経営の多角化、農地の保全、獣害防止等を目的に、集落放牧の取り組みが4ヶ所で実施されています。その内、横尾衛門では平成27年度から、城九郎では平成28年度からレンタル牛を利用した集落放牧を開始し、今日までに多角的な集落営農を進めてきました。

入牧当日は、それぞれの法人でレンタル牛の畜主、構成員が立ち合って、体測を行った後、放牧直後の牛の行動や電気牧柵に異常がないか観察・確認を行いました。一方、見学に来られた市内のリーダーは、慣れた手順で放牧施設をセットする様子を見たり、仲間で協力して管理作業の負担を軽くする仕組みについて熱心に聞いておられました。そして、地元での集落放牧開始に向けてさらに意欲を高められたようでした。

6月末には市内で新たに1件の放牧がスタートする予定です。普及部では、定期的に各放牧地を巡回するとともに、その結果を基に他地域での放牧の推進を図っていくことにしています。



入牧後の観察の様子